

令和2年度 実施事業の概要

教育事業名: 教員免許状更新講習
期間 令和2年8月3日(月)～8月5日(水)
対象及び参加人数: 学校教員 19名
目的: 国立妙高青少年自然の家のフィールドを活用し、集団宿泊学習を通じた学級づくりのあり方や、環境をテーマとした「総合的な学習の時間」「生活科」の指導に必要な知識・技術を身に付ける。また、体験活動の教育的意義やその指導方法を理解し、教員としての資質・能力の向上を図る。
事業概要: 教員免許状更新のための選択領域「学級経営・教科指導に生かす体験活動」の講習会を実施。1日目、講義「教育における体験活動の意義(やる気と人間関係の心理)」、実習「体験活動の指導法Ⅰ(妙高アドベンチャープログラム)」を実施。2日目、講義・実習「体験活動の指導法Ⅱ(総合的な学習の時間・森から発想してみませんか)」、講義「長期集団宿泊体験活動の意義と安全管理」、講義・実習「体験活動の指導法Ⅲ(キャンプファイヤープログラム)」、3日目、実習「体験活動の指導法Ⅳ(野外炊事プログラム)」を実施した。また、3日間のそれぞれの講習について認定試験を実施した。
成果: 新型コロナウイルス感染拡大予防に留意した活動内容や環境整備に努め、実施した。 学級経営・教科指導に生かす体験活動の意義や安全管理・指導法について理解を深め、受講者全員が履修認定試験に合格することができた。また、県内の様々な地域、年齢層の教員が集まり、体験活動や演習を通して学ぶ場を設定することができた。 妙高アドベンチャープログラムの実習では、学校現場ですぐに活用できそうだと感じたり、自分なりに教材を工夫したいと意欲が増したりしたとの意見を得た。野外炊事の実習で行ったポリ袋調理は、感染症対策及び災害時を想定した防災調理実習の可能性を感じたとの声があった。 受講者からは、全ての講習において実際の指導場面で活用できる知識を豊富に得られたと好評だった。講義と実技を合わせて行うことで、学びを深め、教員としての資質・能力の向上を図ることができた。

課題: 今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響から、例年に比べると参加者が少なかった。 青少年の自然体験や生活経験等の体験不足が指摘され、学校教育での豊かな体験活動の充実が求められているが、自然体験活動の指導に自信をもてない教員も少なくない。受講者が活動の意義や指導技術のヒントを得ることができるような講習を、限られた時間の中で提供していくことが今後の課題である。

